

*** 1.5m 赤外シミュレータ望遠鏡検収時の写真発見**

アーカイブ室新聞 443 号に「65cm 屈折望遠鏡のドイツ・ツアイス社で検収時の写真発見」という記事を書いた。65cm 望遠鏡の検収は昭和 2 年 (1927 年) 頃のことであった。1.5m 赤外シミュレータが国立天文台三鷹キャンパスの開発実験棟屋上のドーム内に完成したのは平成 6 年 (1994 年) のことであった。1.5m 赤外シミュレータの検収には筆者も行った覚えがある。その際の写真が見つかった。写真 1 が工場で完成した姿である。



写真 1 工場で完成した 1.5m 赤外線シミュレータ

65cm 屈折望遠鏡が完成して 67 年後に、1.5m 赤外線シミュレータと名付けられた国産最大（当時）の望遠鏡が完成したのである。それまで日本最大の望遠鏡は国立天文台岡山天体物理観測所にあるイギリス・グラブパーソンズ製の 1.88m 反射望遠鏡であった。

この 1.5m 赤外シミュレータは、ハワイ・マウナケア山頂に建設した大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の赤外観測装置開発用の赤外線光源を得るという目的でつくられた望遠鏡であったが、国内第 2 の大きさをもった光学赤外線望遠鏡でもあった。その他にすばる望遠鏡の立ち上げの予行演習用とも位置づけられていた。

この望遠鏡は、現在は広島大学東広島天文台の「かなた望遠鏡」に変身している。「すばる」建設に携わった筆者にとっては懐かしい望遠鏡である。写真 2 は別の角度から撮った写真である。



写真 2 1.5m 赤外シミュレータ

写真 3 は、三鷹キャンパスの開発実験センター屋上のドーム据え付けられ観測に使われていた頃の写真である。赤外線での観測は空の明るい三鷹でも十分その威力を発揮していたが、より有効な活用ということで広島大学に譲渡されたが、その製作にかかわった関係者としてはさびしい気がしている。



写真3 三鷹で活躍中の頃の様子

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp